

# 保育内容「表現」における音楽教育のかかわり

— 音楽から派生する保育活動の可能性 —

田 中 宏 明

## Concerning of Music Education to Foster Expression in Early Childhood Education

— Possibility of Early Childhood Care Activity that Derives from Music —

Hiroaki TANAKA

### Abstract

The common denominator of the music to foster expression in early childhood education and each field of modeling, the contents of a kindergarten education point, and, it was considered about the following point. One of 5 regions of the kindergarten education point, the(1) sound in “expression”, the(2) color, the(3) feel and(4) move, I aimed at a word of 2, the color and a movement and found the common denominator in music in the class of the expression in early childhood education and each field of modeling from the inside. How these common denominators can be utilized for guidance using the children's song which are main teaching materials of the musical field searches a developed possibility of the musical field as the expression in early childhood education.

Even if music and modeling are integrated as the same territory of “expression”, the curriculum top is still separate handling. But those didn't become estranged at an actual nurture site. Therefore it's possible to expand a possibility of the early childhood education detail in territory “expression” by recognizing a component to which 2 are common specifically.

### 1. はじめに

本稿では、保育内容「表現」における音楽と造形の各分野の共通項を幼稚園教育要領と授業シラバスから抽出し、この授業科目で音楽と造形をどのような形で関連付けることができるかを考察する。

保育者養成校での必修科目のひとつに、「保育内容」がある。幼稚園教育要領にある5つの領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)ごとに授業カリキュラムが組まれている。その中で音楽に関連する授業、保育内容「表現」<sup>※1)</sup>では、音楽と別々の扱いであった造形が一つにまとめられている。にもかかわらず、他の4つの領域の保育内容は1領域につき1科目であるのに対して、「表現」では「音楽」と「造形」の各専門家による二つの授業に分かれて授業が行われていることがほとんどである。これらの科目が統合

---

所属:

藤女子大学人間生活学部保育学科非常勤講師

Department of Early Childhood Care and Education, Faculty of Human Life Sciences, Fuji Women's University

後も依然として別分野の芸術として捉えられているからであろう。

では、音楽と造形の各分野の内容は、実際の保育の現場では明確に分離されているのであろうか。この「表現」の指導法や内容について山野は、「保育内容「表現」にかかわる科目のあり方が本質的に検討されないままに、音楽、美術、体育などを専門領域とする教員のリレー式の授業が展開され、それらの関連を統合することが学生に委ねられているという実態がうかがえる。」と述べている<sup>[1]</sup>。確かに音楽と造形だけでなく、日々の保育の現場では、各領域は決して分けられるものではなく、ゆったりと、でも確実に協応し合っている。「言葉」や「人間関係」の関係しないごっこ遊びはあり得ないし、季節ごとの行事、たとえば七夕の季節には、短冊に自分の気持ちや願いを「言葉」に表現して文字にし、友達や先生たちと協力して飾り、歌を歌う。この様に、実際の保育現場では、境目のない「各領域の連携」が特別に意識することなく存在している。

## 2. 幼稚園教育要領から読み取る「表現」の改訂の意図

平成20年に改訂された、幼稚園教育要領の「第2章 ねらい及び内容」<sup>[2]</sup>によると、「表現」について、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」<sup>[3]</sup>とある。つまり改定後の要領は、表現を行う手段は音楽や造形に限定はしていないのである。物語の様な「おはなし」などの「言葉」も関連することもあり得るし、「踊り」などの身体表現もそこには含まれる。また、これらの表現方法が各領域の境界を越えて複合的に影響し合い、幼児の持つ創造性を最大限に引き出せるよう配慮した結果、一見大まかに見える統合になったと考えられる。

## 3. 保育内容「表現」における音楽と造形との共通項

まずはじめに上記教育要領における8項目の「内容」から、特に音楽に関連する項目について、「(1)生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。」<sup>[4]</sup>とある。このなかで「①音、②色、③手触り、④動き」に着目してみると、音楽に一番直結する単語は、①音、である。またもっとも遠いところにあるのは、③手触り、である。そのため、②色と④動きはこれらの中間に位置すると考えられる。表現媒体としての音楽と造形は、分類上別のものとして分けられているが、共通の要素も多い。このあと「色」と「動き」を手掛かりに論旨を進めてゆく。

次に、保育内容「表現」の造形がどのように授業で扱われているかを考察する。

前出した教育要領の「内容」の

(7)に「かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。」

とある<sup>[5]</sup>。確かに実際の保育現場では、「遊びの中での必要性から、幼児自らが色や形にこだわり、工夫して、かいたり、つくったりする姿も見られるようになる。」<sup>[6]</sup>

造形分野の専門家である長谷川は自らの授業シラバスにおいて「造形表現と色彩」<sup>[7]</sup>を挙げている。これは前述の②色、に該当する。色彩とは視覚的な要素から判断されるため、造形分野特有の項目と考えられるが、「音色」という言葉があるとおり、音色および和声的な響きの変化を聴き分ける、また感じ取ることによって音楽の分野にも色彩表現が可能である。

④動き、については実際の保育活動で日常的に見ることが出来る。例えば蝶々やゾウの動きを表現しようとする場合、これらを想像できる音楽に合わせて園児は自然に飛ぶ、羽ばたく、腕をゾウの鼻に見立てて動かす等の動きを行うであろう。また、園児がイメージする蝶々の絵を描いたり、音楽に合わせて蝶のペープサートを操ったり、粘土や折り紙でゾウを作成することなどたくさんの連動した保育内容が派生し得る。したがって音楽と造形との共通項は「色」と「動き」である。

山野は、保育内容指導法（表現）の授業内容について、

〈リズムを描く〉音と点、線、形、色    〈旋律を描く〉音と点、線、形、色

と挙げている<sup>[8]</sup>。描くという行為は動きをともなう。そしてその動きは点・線・形・色によって表現されている。つまりリズム・旋律という音楽特有の単語にも「動き」の要素が含まれることがわかる。

#### 4. 保育内容「表現」における音楽のかかわり

山本は保育内容「表現」における授業の概要で、「日々の生活や遊びの場面での子どもの表現・造形・音楽・言語・身体表現等の表現方法を自由に組み合わせた総合的な、その子らしい表現を体験・体感する」と述べている<sup>[9]</sup>。ではここでいくつかの童謡（こどものうた）を例にとり実際の音楽として前項の「色」と「動き」がどのように関連付けられているのかを考察する。

##### 譜例1 おかたづけ（作詞・作曲者不詳）<sup>[10]</sup>

♩ = 112

おかたづけ おかたづけ さあみなさんおかたづけ

この楽曲は、全4小節と非常に短く、覚えやすい。そのためこどもが遊んだあと、片付けを促す日常的な音楽として適切であると考えられる。歌詞「おかたづけー」と付点のリズムによる躍動感（動き）があり、旋律も上行形で書かれているため、園児が片付けをするテンションも上げることができる。「さあ みなさん おかたづけ」では、「みなさん」で最高音に達するため、「みんなで仲良く」という趣旨が強調されている。リズムと旋律が上手く活かされている例である。

譜例2 おつかいありさん (関根榮一 作詞・團伊玖磨 作曲)<sup>[11]</sup>

mf

1. あんまりいそいでこっつんこ ありさんとありさんと  
2. あいたたごめんよそのひょうし わすれたわすれた

mf

f

こっつんこ } あつちいつてちよんちよんこつちきてちよん  
おつかいを }

f

Detailed description: This is a musical score for the song 'Otsukai Arisan'. It consists of two systems. The first system features a vocal line in treble clef with lyrics in two lines, and a piano accompaniment in grand staff (treble and bass clefs). The tempo is marked 'mf'. The second system continues the vocal line with lyrics, and the piano accompaniment. The tempo is marked 'f'. The key signature has two sharps (F# and C#), and the time signature is 2/4.

この楽曲はアリさんたちがせわしなく動いている様子が、よく伝わってくる。また、4小節ごとの各フレーズで、付点リズムと締めくくりの4分休符の組み合わせは動きと休止と捉え、身体活動の「ストップ・アンド・ゴー」に、また、月齢の小さい幼児には手遊びに、それぞれ活かすことができる。

譜例3 ぶらんこ (都築益世 作詞・芥川也寸志 作曲)<sup>[12]</sup>

Andante ♩ = 66 environ

mp non rit.

mp (あかるく)

1. ぶらんこゆれておそらがゆれる  
2. なかよしこよしげんきなぼくら

mp

Detailed description: This is a musical score for the song 'Buranbo'. It consists of two systems. The first system features a piano accompaniment in grand staff (treble and bass clefs). The tempo is marked 'Andante' with a quarter note equal to 66 beats per minute. The dynamics are marked 'mp' and 'non rit.'. The second system features a vocal line in treble clef with lyrics in two lines, and a piano accompaniment in grand staff. The dynamics are marked 'mp (あかるく)'. The key signature has three flats (Bb, Eb, and Ab), and the time signature is 2/4.

この楽曲は「おつかいありさん」と同じく付点リズムが使用されているが、前曲はリズムの動きが特徴的であるのに対して、流れるような旋律に特徴がある。この旋律の滑らかな印象は、順次進行下降形が多用されていることに由来すると考えられる。また左手伴奏部分は、ほぼ1小節ずつの範囲を10度音程の和音で形成されており、ゆったりと揺れるブランコのイメージが色彩豊かな和声変化によって表現されている。

譜例4 大きなたいこ (小林純一 作詞・中田喜直 作曲)<sup>[13]</sup>

The musical score for '大きなたいこ' is presented in two systems. The first system shows the beginning of the piece with a tempo of quarter note = 56. The melody starts with a mezzo-piano (mp) dynamic and moves to mezzo-forte (mf) and then forte (f). The lyrics 'おおきなたいこ' are followed by 'ドーン ドーン'. The second system continues the melody with piano (p) and forte (f) dynamics, with lyrics 'ちいさなたいこ トントン おおきなたいこ ちいさなたいこ'. The score includes piano (p) and forte (f) markings, and 'Ped.' (pedal) markings with asterisks (\*) indicating specific points.

この楽曲は、大小のたいこが「ドーン ドーン」と「トントン」、強音と弱音、音価の長い4分音符と音価の短い8分音符といった対比によって特徴付けられている。また、「ドーン」がへ長調のⅠ度の和音であるのに対して、「トントン」はⅤ度の和音で書かれている。このように、リズムには動きの対比が、和声には色彩の対比が見事に表現されているのである。

## 5. まとめ

以上、保育内容「表現」における音楽と造形の各分野の共通項を幼稚園教育要領と授業シラバスの内容をもとに考察してきた。

(1) 幼稚園教育要領の「表現」にある、①音、②色、③手触り、④動き、の単語に着目し、保育内容「表現」として音楽・造形の共通項は、「色」「動き」であることがわかった。

(2) これらの共通項が、音楽分野の主要教材ともいえる童謡に活用できることが実証された。

音楽・造形は同じ「表現」の領域として統合されても、カリキュラム上は依然別々の扱いである。しかし、実際の保育現場ではそれらは乖離したものではない。そのため、2つの共通する構成要素を具体的に認識することにより、保育現場における表現活動が楽しく多様なものになるよう願っている。

## 引用文献

- [1] 山野てるひ, 岡林典子, ガハプカ奈美(2009)『音楽と造形の総合的な表現の可能性——「保育内容指導法(表現)」の授業における試み——』京都女子大学発達教育学部紀要 第5号 p.121.
- [2] 文部科学省(2008)『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 p.258.
- [3] 前掲 [2] p.263.
- [4] 前掲 [2] p.263.
- [5] 前掲 [2] p.263.
- [6] 前掲 [2] p.166.
- [7] 長谷川美和(2015)『保育内容の指導法(表現)』神戸女子短期大学幼児教育学科カリキュラム/シラバス J30400170 p.1.

- [ 8 ] 前掲 [ 1 ] p.123.  
[ 9 ] 山本美貴子, 須藤みぎわ (2015) 『保育内容 (表現)』和泉短期大学児童福祉学科シラバス p.1.  
[10] 小林美実 (1975) 『こどものうた 200』チャイルド本社 p.61.  
[11] 新海 節, 田中宏明(2015) 『ほどよいレベルで弾ける 保育者のためのピアノ&童謡曲 60』 圭文社 p. 119.  
[12] 全国大学音楽教育学会編 (2013) 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌』 音楽之友社 p.70.  
[13] 前掲 [10] p.49.

## 注

- 1) 平成元年以前の幼稚園教育要領は、「音楽リズム」と「絵画制作」に領域が独立されていた。